

令和7年度 第59回 中学生の「税についての作文」

まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞

『問題解決の支え』

町田市立山崎中学校 3学年 竹内 夏実

とある日、社会問題について調べ、プレゼンテーションをする授業がありました。私はその社会問題から「少子高齢化」について調べました。少子高齢化社会だと、後継者不足になるだけではありませんでした。大きな問題として示されていたのは「社会保障費の増大」だったのです。高齢者人口の割合が大きくなると、医療費や介護費も増大し、これらを少ない人口で負担しなければならないという内容でした。そこで私は税金の使い道も気になり調べてみたところ、税金が最も多く使われているのは社会保障費だと分かりました。また、少子高齢化の原因の一つとして、仕事と育児の両立ができないということも知りました。私も学校で新入生が自分の学年よりも人数が少なくて驚きました。「税金」というと、あまり良い印象はありません。しかし、税金はそのような問題を解決するため、育児支援を行ったり、学校の教科書を無償で給与するといった使われ方があります。また、これら以外にも環境や保健衛生、道路の整備にも税金が使われています。このため、日本では消防車や救急車の出動が無料だったり、地震などの災害がおきたときの復旧作

業、コロナの対策も行われてきました。当たり前の生活の中にも税金の支えがあり、これからの未来のために使うべき税金だと思います。私の地域では、学校給食センターが建てられ、温かくて美味しい給食が届けられるようになりました。私は、毎朝自分で弁当を用意していましたが、給食になってから朝はゆっくり準備できるようになりました。自分で弁当を用意している学生や共働きだったりひとり親の家庭に、お弁当作りが大変だと思っている全ての人の朝の自由な時間が増えること願っています。

それはそうと、世界の税金はどうなのでしょう。消費税を例にすると、フィンランドでは二十四パーセント、イギリスでは二十パーセントと、日本よりも約十パーセントも差があります。消費税が高いと、耐えられないと思う人もいます。しかし、フィンランドに関しては住みやすい国ランキング一位でもあります。その背景には、子育て支援が手厚かったり、給食が無料で提供されるなど、国民の幸福と平等を中心とした政策が行われているのです。

少子高齢化は世界的な問題でもあり、税金によって子育て支援とった政策が各国で行われています。日本は治安が良かったり、公共交通機関が正確だったり、日本国民として誇れることはたくさんあります。その一方で、格差や貧困を無くすためにも「税金の力」で教育無償化などの国民に寄り添う政策が大切であり、それを支えるのが税金だと思いました。